

安全データシート
Hemo-Clear

作成日:2011年4月1日

改訂日:2023年10月1日

1. 化学品等及び会社情報

化学品の名称	Hemo-Clear(ヘモクリア)
製品コード	CS-2001-4、CS-2002、CS-2004
会社名	株式会社ファルマ
住所	東京都渋谷区大山町 36-7
電話番号	03-6407-2570
ファックス番号	03-3465-0300
電子メールアドレス	marketing2@falma.co.jp
緊急連絡電話番号	080-8878-0242
推奨用途及び使用上の制限	試験研究用:病理組織標本作製用中間剤、脱パラフィン剤、透徹剤

2. 危険有害性の要約

化学品の GHS 分類

物理化学的危険性	引火性液体	区分 4
健康に対する有害性	誤えん有害性	区分 1

上記以外の項目は、区分に該当しない又は分類できない

GHS ラベル要素

絵表示



注意喚起語

危険

危険有害性情報

可燃性液体

飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ

注意書き

安全対策

熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。

保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。

応急措置

飲み込んだ場合、直ちに医師に連絡すること。

無理に吐かせないこと。

保管

容器を密閉し、換気の良い涼しい場所で施錠して保管すること。

廃棄

内容物、容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	混合物
化学名又は一般名	Aliphatic hydrocarbons (脂肪族炭化水素)
官報公示整理番号	なし

4. 応急措置

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	皮膚を水で洗うこと。 皮膚刺激が続く場合、医師の診察、手当を受けること。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。 眼の刺激が続く場合、医師の診察、手当を受けること。
飲み込んだ場合	すみやかに口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。 直ちに医師に連絡すること。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状	皮膚：皮膚の乾燥、発赤。 継続あるいは反復して接触すると敏感あるいは皮膚炎を起こすことがある。 吸入：長時間・高濃度で暴露された場合、疲労、悪心、嘔吐、鼻刺激等を起こすことがある。 経口：肺内に吸い込んだ場合、肺炎又は肺に損傷が生じることがある。

5. 火災時の措置

適切な消火剤	二酸化炭素、粉末、水、泡。
使ってはならない消火剤	棒状放水
火災時の特有の危険有害性	燃え易く、熱、火花、火炎で容易に発火する。 火災時に刺激性又は有害なガスが発生するおそれがある。
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 安全に対処できるならば着火源を除去すること。 容器が熱に晒されているときは、移動させない。
消火活動を行う者の保護具及び予防措置	消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の保護具を着用する。 すべての発火源を速やかに取除く。 関係者以外の立ち入りを禁止する。 密閉された場所に立入る前に換気する。
環境に対する注意事項	漏出物を河川や下水に直接流してはならない。

封じ込め及び浄化の方法及び機材
不活性材料(例えば、乾燥砂又は土等)で流出物を吸収し、化学品廃棄容器に入れる。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の措置を行い、必要に応じて保護具を着用する。

安全取扱注意事項

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。

衛生対策

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
取扱い後は手などをよく洗うこと。
皮膚や眼との接触を避けること。
飲み込まないこと。

保管

安全な保管条件

容器を密閉して換気の良い涼しい場所で施錠して保管すること。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度

未設定

許容濃度

未設定

設備対策

貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。

作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。

炎や高温のものから遠ざけること。火気厳禁。

保護具

呼吸用保護具

必要に応じ、有機ガス及び蒸気用フィルター付きマスクなどの呼吸用保護具を着用すること。

手の保護具

保護手袋を着用すること。

眼、顔面の保護具

保護眼鏡を着用すること。

皮膚及び身体の保護具

必要に応じ、長袖作業着、保護長靴を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態

液体

色

無色透明

臭い

ほとんどなし

融点／凝固点

データなし

沸点又は初留点及び沸点範囲

170°C(沸点)

可燃性

可燃性

爆発下限界及び爆発上限界／

≥ 0.68 vol%、≤ 5.4 vol%

可燃限界

引火点	63°C
自然発火点	230°C
分解温度	データなし
pH	データなし
動粘性率	1.5 mm ² /s(38°C)
溶解度	水に不溶
n-オクタノール／水分配係数	データなし
蒸気圧	2.6 mmHg(38°C)
密度及び／又は相対密度	0.76(15°C、水=1)
相対ガス密度	3(空気=1)
粒子特性	該当しない

10. 安定性及び反応性

反応性	通常の条件下で安定。
化学的安定性	常温、常圧下で安定。
危険有害反応可能性	強酸及び過酸化水素と混触すると、発火する危険性がある。
避けるべき条件	加熱により容器が爆発する可能性がある。引火点以上では可燃性ガスが発生する。
混触危険物質	強酸、過酸化水素
危険有害な分解生成物	燃焼により、一酸化炭素、二酸化炭素を発生する。

11. 有害性情報

急性毒性	
経口	ラットにおける LD ₅₀ 値 > 5000 mg/kg に基づき、区分に該当しない。
吸入	ラットにおける到達可能最大濃度で死亡は認められなかった。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	データなし
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	データなし
呼吸器感作性又は皮膚感作性	データなし
生殖細胞変異原性	データなし
発がん性	データなし
生殖毒性	データなし
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	データなし
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	データなし
誤えん有害性	40°Cでの動粘性率が 20.5 mm ² /s 以下であることから区分 1。

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性 短期(急性)	>1 g/L から区分に該当しない
水生環境有害性 長期(慢性)	データなし
残留性・分解性	データなし
生態蓄積性	データなし
土壤中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。

内容物、容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。

廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。

汚染容器及び包装

容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制

国連番号

該当しない。

国内規制

陸上規制情報

消防法の規定に従う。

特別な安全上の対策

消防法の規定によるイエローカード携行の対象物

その他一般的注意

輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

食品や飼料と一緒に輸送してはならない。

15. 適用法令

労働安全衛生法

危険物・引火性の物

消防法

第4類引火性液体、第2石油類非水溶性液体

上記内容は当社で入手可能な情報に基づいて作成していますが、記載データや評価に関しては、情報提供であり、いかなる保証をなすものではありません。未知の有害性があり得ますので、取扱には十分ご注意ください。

本 SDS は JIS Z7253:2019 に準拠して作成しています。